

# ネパリ・バザーロ

## たより

第 13 号

ベルダレルネーヨ通信

1997年3月

ネパリ・バザーロは、ネパールを中心としたアジア諸国のハンドクラフト製品や食品の企画、開発を行い、継続的に輸入を続けることによって就業の場の拡大をめざすフェアトレード団体です。立場の弱い人々、女性、子どもの自立を支援し、貧困の課題改善に取組めたらというのが私たちの願いです。母体となるボランティア・グループ(NGO)であるベルダレルネーヨ(ネパールの女性の自立と子どもの育成支援の会)のトレード部門として1992年から活動しています。



ビシュヌホームの子どもたち / 陰山 有加

### 目次

「生産者をたずねて」 土屋春代	.....2
「声」	.....3
「ネパールの新しい流れ - インターネット -」 土屋完二	..4
「行ってみよう あのお店 フェアトレードの本」	.....5

「エベレスト街道」 大野達雄	.....6
「ホームページ紹介」	.....7
「ネパール訪問報告」 久田智子	.....8
「あ!これいいな」 廣田麻紀子	.....9
「あ!これ新しい」 廣田麻紀子	.....9
「ニュースコラム」	.....10

## 生産者をたずねて その2

- 布も人生も夫婦で織り上げて -

土屋春代



### ロングセラーのひみつ

赤・黄・緑等カラフルな木綿やシルクの糸の縞模様。4つの房を2つづつ引くと開いたり閉じたりする巾着型の可愛い小物入れ。印鑑を入れたり、化粧品や数珠を入れたりと活躍しています。急ぐ時はどの房だったっけと戸惑うことが多いのに、ネパール・バザーロのスタート以来しっかり定番の位置を占め欠品させてはいけない製品の一つです。この根強い人気はどこから来るのでしょうか。いかにも手作りっぽい素朴さ？手の平にちょうど良い大きさと手触りの優しさ？

その小物入れを作っているらっしゃる生産者の方を今回はご紹介いたします。パタン郊外、静かな住宅地の中にその慎ましいお宅はあります。ドゥルガー・デビ・ジョシさん(70才)と夫のナンダ・クリシュナ・ジョシさん(74才)にお会いしてお話を聞くと、まるで「の昔ばなし」の世界に入り込んだような錯覚を抱きます。懐かしさ・安心感・だんだん心が静かに穏やかに優しくなっていくような心地よさ。多くを望まず、誠実に地道に働



き、子供たちを育て上げ、今も仕事を続け、誇りを持って暮らしていらっしゃるこのお二人に作られる小袋が強く人を引きつけていくのもわかる気がします。

連れていってくださったサナ(ネパールのフェアトレードのNGOの一つ)のマネージャーのチャンドラさんが「デビさんは機織りも縫製も納品も全部自分でします。決して人任せにしません。70才でもとってもお元気で圧倒されます」とニコニコ。

### 織物一筋に生きて

夫のクリシュナさんは以前政府の仕事で30年以上も村々を廻り機織りを教えてきた専門家でデビさんにこの技術を教えたのも彼です。今でもデビさんの作る製品のデザインや技術指導をしていらっしゃいます。とても意欲的で好奇心旺盛なクリシュナさんは、インタビューをメモしている私の手元を覗き込んで「これは日本語ですか。私も日本語を習わなくては」と張り切り「人は目が見える間は働くくてはならない。まだまだ仕事をしますよ。どんなことでも言ってください」と言われました。その言葉を聞いて身の引き締まる思いがしました。ネパールのこういう方たちを知っていただきたい、お知らせしたいと思いました。

### ネパール人はなまけもの？

「援助」している人の中には時々「ネパール人は怠け者だ。働かないから貧しいのだ」という人がいます。「お金や物を与える援助」には

楽をしてお金を欲しがる人々が集まりやすいのでそういうイメージを持つてしまうのかもしません。途上国ばかりではなく日本にもどこの国にも急け者はいます。簡単にお金が得られる方法があるとわかれば、ちゃんと働けた人まで変身する恐れさえあります。マルチ商法がマスコミを賑わせ騙されない様に気をつけてといふら注意を呼びかけても次から次へ手を変え品を変え、同種の犯罪(ビジネス?)がなくならないのは多くの人がより樂により沢山お金を欲しがるからではないでしょうか。援助する側、される側ではなく、共に自立を目指すパートナーシップを築こうと始めたこの仕事で、ありがたいことに多くのひたむきに地道に努力を続けるネパール人や日本人、他の国々の人にお会いしました。このニュースレターを読んでくださる方々ともそのご縁で繋がりました。共にを目指しましょう「FAIRER WORLD」を。

実はこの訪問の時、本当に器用なクリシュナさん手作りの仕掛け人形、紐を引くと台車が動き、上に乗っているネパールの女性の人



形が脱穀したり、糸を紡いだり…という人形に魅せられてボーゲーとしていた私を見て「気に入ったのなら作ってあげますよ」とニッコリ言われ飛び上がって喜びました。もしいくつか作っていただけたらお分けできる日が来るかもしれません。いつまでもお元気でいてくださいね。デビさん、クリシュナさん。

### < 声 > 協力者の方々からいただいたお便りをご紹介します。

今年('96年)の夏、3ヶ月間ネパールに滞在してボランティアの数々に触れてきました。皆さん一所懸命にやって居られるようですが、ひとりよがりやネパール人を見下している心中が推察されて、凡人の私には難しいことを痛感してきました。そして、ネパリ・バザーロの「フェアトレード」精神が私の理想と確信した次第です。困難な問題が多いと思いますがご健闘を祈ります。ビスター(ゆっくりと)は避けられないのでしょうか。ネパリ・バザーロだよりは優しい表現、綺麗な言葉、現地の赤裸々な情報でとても心温まるお便りです。楽しみにしてい

ます。具体的に協力できるのはコーヒーを購入することくらいですが悪しからずご了承ください。先日送っていただきましたコーヒーは娘たちに取られてしまいました。

島田 博 様 (札幌市)

さわやかな味、香りのコーヒーを通し、だからこそ教育を高め、自立の道の援助、いえ反対でしょうか、自立のための援助が、教育を受けさせなければならないと思う両親を増やすことにつながるわけですね。ホントに私もほんの一役ですが続けて頂きたいと思っています。勝亦 祐子様(豊田市)

# ネパールの新しい流れ

--- インターネット ---

土屋完二

はじめに：

ネパールの新しい動きといえば、民主化以後の動きはひときわ重要であるし、一国の収入を増大させる面では観光に力を入れはじめたとか、話題はたくさんあるが、今回は、最近日本でも話題に多く登場するインターネットの話題を追ってみた。機会があれば、パソコンの浸透、デスクトップパブリッシング(DTP)という日本ではマッキントッシュを中心に有名になったコンピュータによる編集、版下作成、印刷の現状などもいつか紹介したいと思う。

インターネットとは：

コンピュータとコンピュータを有線で結んだ世界的規模のネットワークのことをインターネットと呼ぶ。このネットワークを使用すれば、市内の電話料金で、日本との情報の交換も可能だ。電話でごく簡単な挨拶で2,000円、FAXでは普通文書1枚(1分)が350円程度になるのだが、この新方式では3分20円程度しかかからない。インターネットの開設には、商用プロバイダというインターネットを市民に提供するサービス会社の存在が必要。そして、市民の方々は、普通、電話回線を使用してインターネットに接続することになる。

通信手段として広がり始めた：

一昨年から、このインターネットを提供するサービスが活発になり、ダーバーマーゲの通り(王宮通り)にあるマーカンタイル社がシンガポールの電話会社と64KBpsという低速の専用線で結んでこのサービスを始めた。日本でいう一般家庭の電話線2本分の大きさと思えばだいたいあたり。昨年末現在で会員が170名、利用率を考えれば皆が同時に使うわけではないので、電子メールという郵便形式

では問題がない容量である。最近の技術発展は目覚ましく、マルチメディアなる絵を送ろうものならすぐパンクなので、まだ絵は送れない状態であった。現在は、この商用プロバイダーなるものも、カトマンズだけとはいえ、2から3社あると聞いている。

街から村へ：

この電子メールなるものは、この国に何をもたらしてくれるのだろうか。幸いに、この電子メールがあれば、テレビに使われている周波数帯の電波で、遠く山々、村々と情報の交換が可能になる。ヒマラヤ登頂の祝電もいつか可能になっているだろう。

昨年、街から遠く離れ、電気がきていない村とカトマンズを無線で交信できる旨の提案をしたことがあった。幸いにその村に帰郷していた弁護士さんが、その関係の知合いがいるので相談してみるとのことであった。今年メンバーがその村を訪れた時には、その村は無線でカトマンズと連絡が可能になっていた。政府へ申請した書類がうまく通ったようだ。これが電子メールであれば更に正確に物事を伝えることが可能になる。

このようにして、文化の影響は、遠く離れた場所にも伝わって行く。通信は、流通の弱いネパールの現状をサポートする重要な手段であり、日々変化をしている。ミラちゃん、ブワン君の通う学校から先日電子メールが届いた。学校の先生とお互いに新しい感動を覚える。取引先とも連絡に活用している。大変に便利である。早く2週間かかる手紙を考えるとうそのようだ。情報が有効に使用され、人々の生活に貢献できることを願わずにはい

*PAGES 8  
BY STAFF REPORTER  
mandal, Jan. 7  
telecommunications  
recently  
private sector  
services  
able.  
ation as  
in which  
the act reserves right with  
necessary measures in  
situations in the emergencies  
Telecom Act &  
authority auton  
the authority.  
The act contains pro  
relating to radio frequency  
is allotment. A high level  
committee is envisaged to  
decide about the radio frequenc  
allotment.  
The act reserves right with  
necessary measures in  
situations in the emergencies  
SOUV  
Kathm  
Mis*

## 図書紹介

# 「行ってみよう あのお店

## - フェアトレードの本 -

<発行:ネパリ・バザーロ B 6 版、58 ページ 定価:500 円>

フェアトレードの商品を購入することは、開発途上国の生産者たちや彼らの家族、コミュニティの生活の質を高めるために、消費者である私たちが日々の生活の中で行うことのできる国際協力です。しかしこうした活動は、まだまだ一般の人々には知られてはいませんし、主旨に賛同し、フェアトレードの商品を買おうと思っても、どこで買えるのかわからないのが現状です。そこで、フェアトレードをわかりやすく説明し、神奈川、東京、千葉のフェアトレード商品を扱うお店とフェアトレードを実際に行っている団体を紹介した小冊子を発行しました。この本を通じて沢山の方々が活動に参加してくださることを願っています。2000年に発行をめざす「全国版」に向けて、全国各地のフェアトレードのお店の情報もお寄せください。

毎日新聞 1996年12月11日(水)

開発途上国の特産品の購入を通じ、経済的自立を支援しようと、NGO（非政府組織）団体「ネパリ・バザーロ」（本部・横浜市栄区、土屋春代代表）がこのほど、途上国の特産品を扱う首都圏の店舗などを紹介した初のガイドブック「行ってみようあのお店—フェアトレードの本」（定価500円）を出版した。

フェアトレードとは、開発途上国で製作、収穫された商品、产品を適正な価格で賣り取り、途上国が経済的に自立出来るように貿易することをいう。

地図や店主のメッセージも

ネパリ・バザーロは、1992年からネパールを扶助するが、「フェアトレード」の

初のガイドブック

## 首都圏の59店舗を紹介 フェアトレード商品扱い

### 横浜のNGOが出版

商品を買いたいが、店の場所がわからない」という問い合わせが同会に多く寄せられたため、土屋代表がスタッフとともに、今年4月から東京などを中心に取材、1冊の本にまとめた。本はB6判58頁。東京都、

【平野圭祐】

土屋代表は「フェアトレードの商品を買なうことが途上国の支援になるという事を多くの人に知つてもらえれば」と話しており、「2000年には全国版を出版したい」と意気込んでいる。問い合わせは、ネパリ・バザーロ045-891-9939。

も記載してある。取扱商品は、コーヒーやせっけんなどの日用品や手芸品、衣類などさまざま。

2000年には  
「全国版」出版も



フェアトレードの本「行ってみようあのお店」を出版したネパリ・バザーロの土屋春代代表

## エベレスト街道 - トレッキング模様

大野達雄

ゾックキヨ(ヤクと牛のハーフ)の一団が砂塵を蹴り立てながら下ってきます。ここはルクラからナムチエバザールに続くエベレスト街道。世界中のクライマーあこがれのあの山が、ここをたどれば確実に視界に入ってくる。胸踊り、血は騒ぎ、喉まで渴いてくるという、始めてここを訪れた人にとっては、まあいわば感動のバージンロードって所でしょうか。

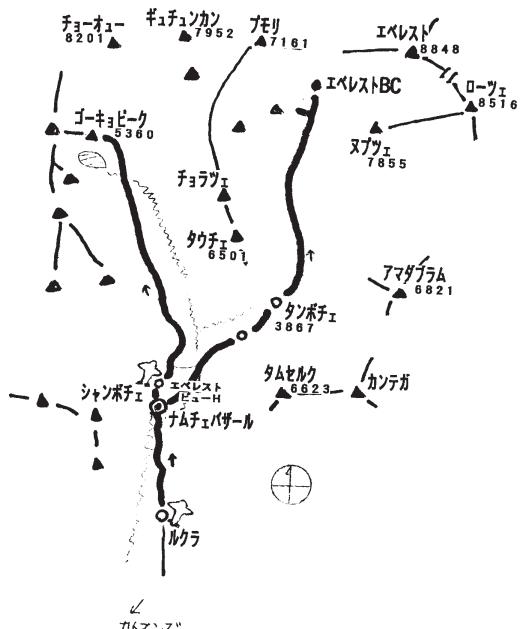
でも何てことないんですねこれが。心臓がドキドキするのは高度が上がって単に息苦しくなるだけなんですね。喉の渴きは、乾燥してホコリっぽいだけなんですね。これを感動とつ違えて興奮しちゃう脳天気の人があまりいるんです。もう訳も分からず駆け上がっちゃう人なんですねこういう人は。

そして、確実に高山病にやられて、周りに迷惑かけて、深く反省を重ねて、それでも性懲りもなくまたやってくる。これはつくづく性ですね山屋の。何を隠そう私もそのうちの一人で

すから、これは実感を持って断言できます。  
そんなことで、私、昨年の11月三度、牛糞、馬糞と人糞が、程よくヒマラヤのホコリでミックスされたこの地を訪れてしまいました。同行者は、ダサイン祭りの休みでカトマンズをうろうろしていた大学生ニール君。彼にアルバイトのポーターをやってもらい、1週間のショートトレッキングに出かけました。

ルクラ(2800m)はエベレスト街道の始発点ということもあって、ツインオッターやヘリが次々と発着しております。中には、ルクラにヘリを待たせておいて、カトマンズからつくやいなやそれに乗り込み、シャンボチエ(3800m)まで一気に上がってしまおうと、横着を決め込む欧米人の中年トレッカーもいたります。私たちは開いた口がふさがらず、ヘリの舞い上げる牛馬人糞ミックス後塵を十分に拝してしまった次第です。多分、このオッチャンたちも、旅行会社のパンフレットなどを見て、感動の余り一刻も早くヒマラヤにチカヅキタイ!と焦ってあるんでしょうな。後の報いも知らんと。私とニール君は、改めてビスター(ゆっくりと)…と心の中で誓い、目と目で合図を交わした次第でございます。

さて、途中一泊して、ナムチエバザール(3400m)に到着します。ここは、山間の谷をスプーンで削り取ったような地形をしています。南斜面が大きく開け、明るくてとても暖かく、昔からの交易地として大変活気がある所です。また6000m級のヒマラヤが近くにそびえているという、絶好のロケーションですから、山好きの連中はニコニコ、和気あいあいといった雰囲気で、のんびりくつろいでいます。ヤクの顔も心持ちほころんでありますな。'95年には電気が引かれ、たいがいのロッ



ジにホットシャワーがあって、これならもうアルプスのツエルマットには負けないぞと思いました。行ったことはないけれど。

また、ここで何泊かして、まわりの丘を探索し、エベレストのビューポイントをチェックするのもトレッキングの魅力です。自分だけしか知らない(と思っている)ポイントを、友人に大いに自慢できるのも、トレッキングの付加価値の一つと言えましょう。

翌日、ナムチエの北側の丘を越えると、シャンボチエの飛行場が現れます。ここは、つい最近までエベレストビューホテルの専用でしたが、押しかけるトレッカーのため一般開放したようです。航空会社の事務所が一気に4ヶ所も増え、大変な賑わいです。ちなみに帰りの便をチェックしたら、「今日はない」、では明日は、「明日もない」、あさっては、「・・・」もう相手にしてくれません。忙しいおじさんについつ本気ではないなと見抜かれてしまいました。カトマンズできちんと予約を入れておきましょう。ただし、いきなり3800mへのフライトは、酸素ボンベとお友達になる覚悟が必要です。

またここから、一昨年ゴーキョコースで遭難した日本人トレッカーとネパール人ガイドの遺体を次々搬送したと聞き、ご冥福をお祈りしました。



ここからの街道は圧巻です。アマダラムを初めとして、6000m級の山々が連なりその奥にお目当てのエベレストが、どうだまいつか、とそびえてあります。基本に忠実な日本人トレッカーたちは、ここで皆一齊にカメラを取り出して、パチパチ始めるんですね。ほら始まるぞと思っていると、見事に当たります。端で見ているとやっぱり異常だなと感じますね。<そういう私も撮ってました。スマン！>

ここで紙数がつきてしまいました。この続きをまたの機会にゆづるとして、最後に、日本の一昔前の山小屋風ロッジに泊まり、さわやかに頬をなでる風とともに、糞塵を、喉深く吸い込んだら、君はもうヒマラヤの虜になってしまうこと請け合いで。カトマンズの粉塵なんぞ目ではありません。ほんとですよ。

#### <インターネット ホームページ>

ネパリ・バザーロ ベルダ レルネーヨのホームページでは、ネパールのこと、フェアトレードのことなど詳しい情報を届けています。

ホームページアドレス

<http://www.yk.rim.or.jp/~ngo/>

# ネパ - ル訪問報告

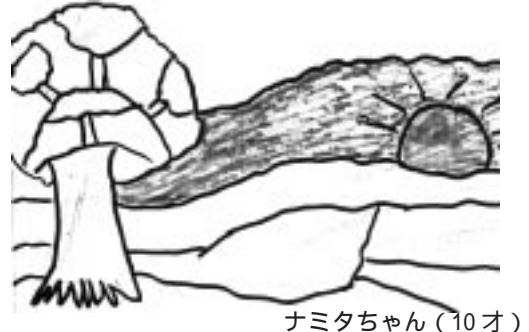
久田 智子

昨年暮れにネパ - ルを訪問した際の、子ども達の様子などをご報告します。

まず、バルナム - ナスク - ルで学んでいるブアン君とミラちゃんですが、二人とも無事に進級する事ができました。ブアン君は5年生に、ミラちゃんは7年生になります。二人とも元気に勉学に励んでいる様です。残念ながら今回は、冬休みに入ってしまっており、二人には会う事ができませんでしたが、この学校の校長先生であるデブロイさんの息子プラヴィさんにお会いし、子ども達の様子も含めてお話を伺う事ができました。プラヴィさんは、アメリカの大学に留学したあと、この学校のマネ - ジメントをおこなっているということです。ちょっとぴりアメリカナイズされた彼に、初対面の私はやや戸惑いを隠すことができませんでした。

一方、ホ - ムの子ども達は、さらにメンバ - が加わり総勢37名になりました。0歳から18歳までの子ども達がいますが、年上の子が年少の子の面倒をみたり、体の弱い子をいたわったりして過ごしています。以前子ども連れて、お手伝いを兼ねて住み込んでいたバルバティさんは息子のアルジュン君と共に、現金収入を得られる職をみつけて12月初めにホ - ムを去りました。その代わりに、生後6ヶ月のサミエル君を連れた若いお母さんが住み込みでいます。彼女にも複雑な事情があり、ホ - ムに来てホッとしたようです。

私のネパ - ル訪問前に届いたFAXでのホ - ムの様子は、風邪が大流行しほとんどの子どもが体調を崩しているとのことで、とても心配して行きました。しかし、訪問時はそのピ - クを乗り越え、何人かの子ども達は軽い咳をしたり、鼻水を垂らしていたりはしている

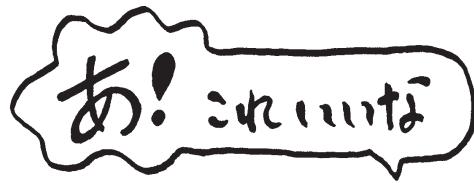


ナミタちゃん(10才)

ものの、庭で元気よく走り回るほどの活気を取り戻していました。栄養が充分ではない上に、狭い空間に大勢の子どもが同居している為、その感染力はあっという間のようです。せめて少しでも、そのような状態を回避できれば…との思いで含嗽(イソジン)と手洗いの指導はしてみたものの、根本的な栄養改善や環境の改善には程遠いことを痛感しました。

ところで今回の訪問時には、昨年ホ - ムからの結婚第1号となったりタちゃんが、長女を連れて里帰りしていました。昨年会った時は、結婚を目前にし照れくさそうにしていた彼女でしたが、すっかり母親らしくなり落ち着いた雰囲気をかもし出していました。その娘のサラちゃんを見つめあやすビシュヌさん御夫妻(とりわけビシュヌさん)の姿は、まるで初孫を授かった祖父母のようにも見えました。かわいくてかわいくて仕方がない様子が伝わってきました。

学校に通いまだまだ子どもだと思っている彼らも、進学や就職、あるいは結婚という様々な問題が生じてくる年頃となってきました。決して裕福ではないにしても、ホ - ムの中で温室のように守られて育ってきた彼らに対し、現実はそうそう甘いものではありません。今までの生活費や学費の援助のみならず、今後こうした進学や自立の問題について、ビシュヌさんを含め彼らと一緒に私達も、考えていかなければならない課題であると感じています。



今回から会報に新しく登場、「あ、これいいな」と「あ、これ新しい」のコーナーです。今までになかった新しい商品をご紹介したり、定番の商品でも「おお、こんな使い方もできるのか！」というような目からうろこ情報をお送りしたいと思います。

さて「あ、これいいな」の最初を飾るのはこれから季節にむけてのバティックTシャツです。雇用の少ない地域への雇用促進プロジェクトで現在は男女あわせて10人の職人さんが染色に携わっています。

色止めの技術にまだ不安がのこるネパールのTシャツ、皆様のご想像どおり



洗濯は要注意です(特に赤い色のもの)。わたしも油断して洗濯機にほくり込んだ翌日、うちの家族はみんなピンクに染まった下着を着る羽目になりました(もちろんこの問題は解決しようとみんなガンバッテいます)。

それでもこのTシャツに根強いファンが多いのは、着心地の良さか？…それとも図柄のあやしさか？

さあ、あなたはどの柄を選ぶ？



バティックTシャツ 1800円

羊の革に一つ一つ丹念に刺繡を施しています。刺繡の柄はインド・カシミール地方の伝統の柄です。この刺繡はカシミールから移入してきた職人さんからネパールの職人さんへと伝えられ、彼らの生活の糧になっています。

巷にはんざしている携帯電話、いずれは1人1台の時代がくるのかも。人の電話と間違えないためにも(そんな奴はないって？まあまあそう言はずに)ぜひお勧めです。

大きさは各種共通、だいたいのものが入ると思います。今は花のモチーフの刺繡なので女性向きですが、今後シブ系のものも登場予定です！

携帯電話ケース 1600円

廣田麻紀子

- ネパールの新聞から -

## ヌワコットの女性たちが地元改善に着手

<カトマンズ・ポスト 1996年12月27日>

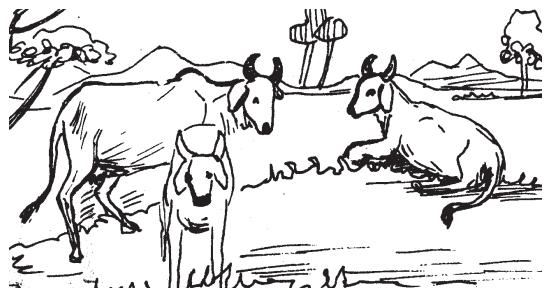
カトマンズの北西にあるヌワコット郡では、リーダー養成プログラムが村の女性たちに成果をもたらしている。10ヶ所の村落開発委員会(VDC)から60名の女性たちが集まり、協同組合を組織した。組合は、地域のVDCやABC/NEPAL(ネパールのNGO)、他のプログラムから26,000ルピーの基金を集めることができた。女性たちは長い間男性支配に苦しんできたため勇気を持てずにきたのだが、今、参加者たちはこう語る。

「もう地主の所へ行ってお金を請う必要はなくなりました。トレーニングのおかげで、店を始めたり、編み物をしたり、ヤギを飼ったり

して、自分自身の力で収入を得るチャンスができました」

「ヌワコットは少女売春の汚名を持つ貧しい地域の一つなので、私たち協同組合は社会にエイズ禍を知らせていく努力も惜しみません」

ABC/NEPALによる、リーダー養成プログラムは10月に9日間、12月に6日間の計15日間行われる。



### <編集後記>



めぐる季節の速いこと。またまた花粉症の季節です。同病の皆様、めげずに春を楽しみましょう。(春代)



やることが溜まって、いつものびています。救いは、みなさまの訪問です。楽しみにしています!(完二)



顔に当たる日があたたかくなりました。春だね~。(麻紀子)



今回も沢山のネパール情報をありがとうございました。私はイベント手伝いで頑張ります。(昌治)



今回は春の特大号、ページ数増です。みんな~、指定した字数は守つてねエ。(早苗)

1997年3月 発行

発行所：ベルダレルネーヨ  
ネパリ・バザーロ  
〒247 神奈川県横浜市栄区桂町274-15  
第2中山ビル 3階  
Tel 045(891)9939  
Fax 045(893)8254

編集責任者：魚谷早苗

編集担当者：土屋春代

土屋完二

廣田麻紀子

太田昌治